

「教育基本条例」「職員基本条例」(案)

の何が問題か！

1. 2つの条例案は何をねらっているのか！



大阪維新の会は「これを国でしようとしたが、何も変わってこなかった」と述べ、「この大阪から再度、戦後民主主義や教育、地方自治体を根本から変えよう」と主張しました。

橋下知事が代表の「大阪維新の会」が条例の概要発表（8／22）のときに言った言葉
条例のねらいを
「戦後レジームからの脱却」
と主張しました。

4年前、安倍元首相（自民党）がさかんに言っていた言葉です。

その中身は、「抽象的な『美しい国』を連呼しながら、**アメリカのために血を流す日本人をつくるため、教育を根本から変え、戦争で**
きる国の人づくり教育」を目指すものでした。

安倍元首相の時に、教育基本法が改悪されました。（2006年12月）

2. 教育基本条例案の中身はどうなっているか？

その1)

人材の育成

「人間を育てる」のではなく、子どもたちをすべて「人材」と表現。

- ・「規範意識を重んじる」人材
- ・「義務を重んじる」人材
- ・「互いに競い合い自己の判断と責任で道を切り開く」人材
- ・「愛国心及び郷土を愛する心にあふれる」人材
- ・「世界標準で競争力の高い」人材

その2)

学力テスト

市町村別
学校別 結果公表

今回提案された条例には「学校選択制」は、入っていません。しかし、当初は「学力テスト」と「学校選択制」をセットで考えていたようです。事実、大阪市の維新の会提案の「大阪市教育基本条例」(案)には学校選択制が入れられています。

「学力テスト」結果公開と学校選択制の問題

- ・学校の序列化に拍車。保護者に「学校選択の自由の拡大」と幻想をふりまき「上位の学校」「安定した学校」に通わせようとする意識が強まる。
- ・入学生の数に差。「子どもの集まる学校」と「集まらない学校」子どもの集まらない学校は、統廃合。学校数を減らしていく。
※東京で選択制の実施で、「入学生0人」の学校があらわれる。
※新年度の入学人数(クラス数)がぎりぎりまでわからない。
- ・「地域の学校」という意識がなくなる
運動会など地域の「自治会」「老人会」等へ招待するということがなくなる。
地域で、地域の子どもを育てる意識がなくなる。



その3)

定員割れ府立

高校の統廃合

入試の学区を撤廃し、全府1学区にして、受験競争をいっそう激しくしようとしています。今春の入試でも、一部の進学府立高校の競争率が高くなる一方、極端に定員割れした府立高校がなくなってしまいました。

私学進学者への授業料(所得制限)を保障した橋下知事です。しかし、「すべての子どもたちに学習の保障する」という立場ではなく、非効率的、規模の小さい学校(私

学も含めて)は競争によって、なくしていく、そのための施策です。

3年連続定員割れした府立高校は統廃合！！

その4)

**評価を相対評価に
最低評価Dは5%**

「育成システム」は、絶対評価です。しかし、条例案では、「次の分布となるように評価しなければならない」とあります。

- (1) S 5パーセント
- (2) A 30パーセント
- (3) B 50パーセント
- (4) C 10パーセント
- (5) D 5パーセント

相対評価にし、最低の評価を5%にする。

2年間最低評価なら「特別研修」。「成果」がなければ免職に。

20人職場なら、必ず1人

40人職場なら、2人(Aさん、Bさん)が「D」評価。

私は安心？

いえいえ、A・Bさんがいなくなったら、その中で、また「D」評価者が5%に。

その5)

**校長は任期付き、
公募で募集
マネジメント能力**

府立高校は任期付きにして、公募にする。教員経験のない者が多数を占めていく？

「教育者」としての資質ではなく、「マネジメント能力の高さ」が基準として公募。

「兼職も緩和」し、他職(民間)を兼務しながら、目標管理に必死な校長が増える！

「教員の人事」について、校長の意見が最優先⇒

教員の「人気校への就職競争」が激化

その6)

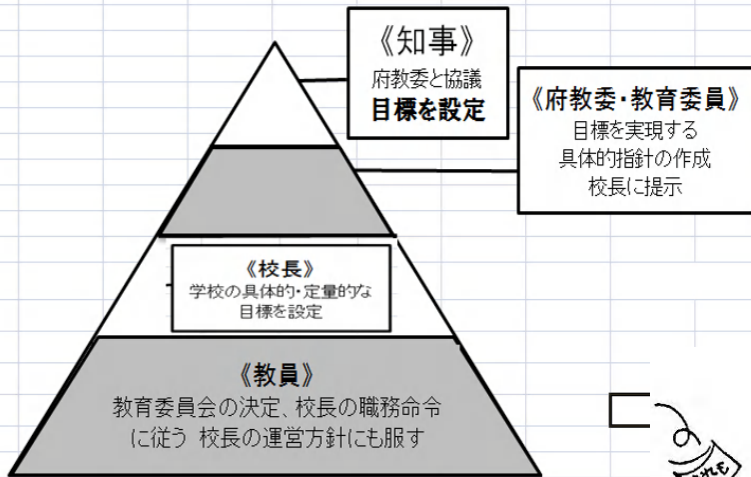
**知事をトップに
ピラミッドの学校が**

府立高校は学校長を任期付き、公募。

任期中に数値目標の実現のために学校長は必死になってしまいます。

数値に表れないことは…。こんなことで学

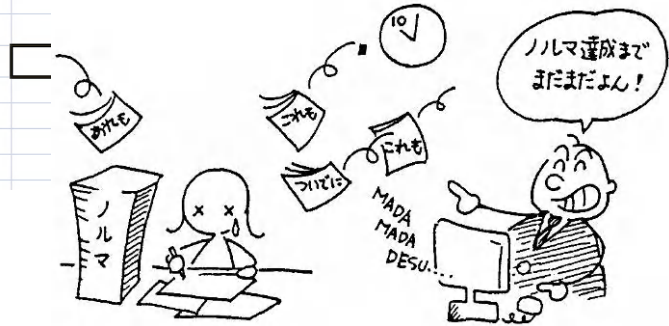
校が、どうなってしまうのでしょうか。



4年以内に、過半数の校長・副校長を任期職員に！

8年以内に、全校長・副校長を任期職員に！

「しなければならない」（条例案）としています。



その7) **言うことの
聞かない教職員は
解雇**

校長の職務命令に5回違反または、同じ職務命令3回違反したら免職！

期限付きのノルマ（定量的目標）を課せられた学校長。「〇〇大学入学 ××人」「有名私立大学〇〇人合格」といった目標に向けて、教職員が生徒たちを追い立てることに…。これに、疑義の声をあげたりすると、どうなるのか…

3. 職員基本条例案の中身は？

- 知事の政策に賛同する人物を部長や局長に。任期付きとする
- 一般職員についても外部人材を登用
- 相対評価にし、最低の評価を5%にする。2年間最低評価なら「特別研修」。「成果」がなければ免職に。
- 上司の職務命令に5回違反するか同じ職務命令3回違反したら免職。



4. 学校関係者はこぞって反対の声！

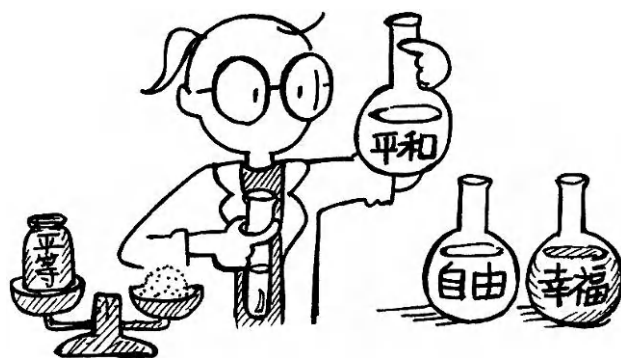
- ・学力テスト競争おしつけ・・・テスト結果の公表について小中学校長の**9割反対**
- ・評価育成システム・・・賃金リンクは、管理職の**74%が反対**。

・中西府教育長「大阪の教育は大混乱する」

「教育行政からあまりに政治が遠ざけられてきたと条例案はうたっているが、これまで教育行政について、橋下知事が問題提起するたびに活発に議論を交わしてきた。全国で大阪ほど知事と教育委員会が議論してきたところはない。心外だ」「教育基本条例案が直ちに実行されれば大阪の教育は大混乱する」と強い懸念

・陰山府教育委員「学力、先生のやる気が上がりますか」

「10年後も今の（橋下知事の）支持率が続き、この政策が支持されているといえるのか。維新が数の力で押し切るなら、根本的に同意できない。こういうことが起ないように（現行制度では）教育への政治介入にブレーキがかかっているのに」



「あの先生を辞めさせたいといういじめが起きる。評価者の方向ばかり向く教員や一部の保護者をつるむ教員も出てきます。これで学力が上がりますか、先生のやる気が上がりますか」・府教育委員会（9月16日開催）

・府幹部

「今まで、評価制度や処分条例など府の職員の代表とも長い年月をかけて積み上げてきた歴史がある。条例案はそれを何もかも否定することになる」

『2つの条例を、府民に問う！』と橋下知事——府知事選挙の争点に

橋下知事が、この3年間で府民のために、主体的にとりくんで実現した成果や実績は何もありません。唯一「ガンバッタ」WTCへの府庁移転も失敗（買い取り85億円、移転諸費用30億円、さらに耐震補強に130億円）に終わり、知事の最大のウイークポイントに。

そこでまやかしの知事選挙争点として教育基本条例・職員基本条例となったわけです。これらの条例案は、特定の政治勢力が公教育に介入し、教育破壊をすすめていくものであり、父母府民の願いと、あいられるものではありません。

政治がやるべきは、

- 少人数学級の拡充
 - 学校耐震化の推進
 - 中学校給食の導入促進など
- 教育諸条件の整備・確立を行うことです。



子どもをめぐる貧困が広がるなか、

- 小・中学校での就学援助の拡充
 - 高校・大学での給付制奨学金制度の創設
 - 授業料無償化の私立高校全体への拡大など
- 教育費保護者負担軽減です。

大阪の教育に求められているのは、憲法と教育の条理、子どもの権利条約に立脚し、子どもの成長・発達を保障する教育政策への抜本的な転換です。

特定政治勢力の公教育への介入、教育破壊の実像を劣悪で貧困な教育の実態と結び、父母府民に広く知らせていけば、目くらましの争点ははげ落ちます。

橋下失政4年間で真の争点になります。



5. おまけ

子どもたちの声や思い

①この夏、行われた1000人の子どもアンケート。

「この世の中でなくなってほしいものは何ですか」という質問です。

子どもたちのなくなってほしいものベスト3は何だったと思いますか。

ひとつは宿題です（子どもらしい答えだと思います）。

もう一つは「原発」です（大人も今回の事故で目が覚めました）。

そして第一位は何か！ それは「戦争」です。

このアンケート結果から子どもたちは、日本の戦後教育で、すこやかに育っていると思いませんか。目を曇らしているのは大人なのかも知れません。

②もう一つ子どもの声を紹介します。橋下知事がある時、子どもたちに次のように言ったそうです。

「テレビばかり見てたらダメだぞー」と。

そしたら、その言われた大阪の子どもは次のように切り返したそうです。

「あんたはテレビがなかったら知事にならへんかったやん」と。

何と大阪の子どもは機知に富み、すばらしいお笑いのセンスを身につけて、すくすく育っているのでしょうか。

